



# 県中いわて

令和6年9月1日 / 第263号

- 発行／岩手県中学校長会 ●代表／小野寺哲男（盛岡市立仙北中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>  
●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

## 県中学校長会役員による被災地訪問（久慈地区・宮古地区）報告

今年度も東日本大震災による被災地区中学校訪問事業として、久慈地区1校、宮古地区2校を訪問いたしました。その概要についてご報告いたします。

### 1 趣旨

県中学校長会常任理事等が、東日本大震災において被災した地域の中学校を継続的に訪問し、直接情報交換することにより、当該地区の課題等を把握し、本会並びに全日本中学校長会等の活動に反映させること。

### 2 期日 令和6年8月1日～2日

- (1) 8月1日 久慈中学校・田野畑中学校
- (2) 8月2日 宮古第二中学校

### 3 訪問者（県校長会役員）

会長 小野寺哲男（仙北） 副会長 泉澤 毅（下橋）  
常任理事 丸橋友之（上田）・久慈 孝（河南）  
廣澤正紀（大宮）・佐々木秀毅（北松園）・照井大道（下小路）

### 4 訪問の概要

- (1) 8月1日午前 久慈中学校（寺澤幸昌校長）にて久慈地区中学校長会との情報交換
- (2) 8月1日午後 田野畑中学校（鎌田政好校長）にて宮古地区校長会の一部の皆さんと情報交換・校舎見学
- (3) 8月2日午前 宮古第二中学校（米倉重智校長）にて宮古地区校長会の一部の皆さんと情報交換

### 5 情報交換の内容及び今後の校長会訪問について

- (1) 各地区の校長先生方からは、震災を知らない子供たちが増えることによる風化が今後ますます懸念されること。
- (2) 震災以降、歯止めの利かない地元の雇用状況の悪化による人口減少と少子化による各校生徒数減少に端を発する学校統合問題が特に久慈地区において課題として上げられた。
- (3) 震災から13年が経過した。長年実施してきた「被災地訪問」は、今後は形を変え、県内各地区の校長会を訪問して、広く情報及び意見交換をする「新たな校長会訪問」を検討する。

以上、活発かつ有意義な交流が行われた。



田中一揆太鼓の練習に励む田野畑中学校の生徒

田中一揆太鼓は平成18年、当時の3年生が中心となって活動を始めました。東日本大震災時には復興を支える地元中学生の取り組みとして大きく取り上げられました。以来20年近く、この活動は田野畑中学校の伝統文化として後輩に脈々と受け継がれています。



鎌田校長による説明



久慈地区校長会の皆さんと



宮古地区校長会の皆さんと

## 先輩メッセージ

## 「楽しんで!!」

三浦 裕明 様  
(前盛岡西峰学園校長)



葛巻中 創立70周年事業として町にお願いして、葛巻テレビとコラボレーションし、感謝を伝える番組を制作。毎日放送をしてもらった。また、保護者の石屋さんに全面協力してもらい、30年後に開封するタイムカプセルを創った。2年目には、町の良さを発信する取組として、町産食材を使用したイタリア料理を生徒達が考案した。試食会は好評を博し、葛巻高原牧場プラトールでも限定メニューとして出してもらった。

城西中 一年かけて新たな経営方針を作成したが、そこへコロナが襲ってきた。まさに危機管理の実践であった。対策方針・マニュアル・ガイドライン（十度の改訂を行った）を定めた（ガイドラインと言えば、市中体開催と修学旅行用も作成し、少しは皆さんへも貢献できたと思う）。創立60周年を迎えた。式典・祝賀会は開催できなかったが感謝状贈呈式、記念誌制作、人文字写真、タイムカプセル設置などの取組はなんとか行った。

盛岡西峰学園 最後にして初めての小学校勤務である。着任してすぐに、なんて面白くてやりがいのある学校だろうと感じた。残り2年であったので、すぐに、全国の小中一貫校の成果と課題を学び、具体的計画づくりを行った。8月に教職員に向けて来年度方針と新しい小中一貫校ならではの取組を説明した。2時間の説明の後に教職員から拍手をもらった時は本当に嬉しかった。最終年が初実践の年である。「お花見交流会」や「交流学習会」等々、新しい取組を次々実践した。一番は、「西峰学園大交流祭」である。中学生に半日の時間を与えた。企画はすべて中学生。目標は小学生を楽ませること。まさに主体的な姿の中学生とそれを憧れる小学生がそこにいた。

校長7年の思い出の一部である。楽しかったの一言である。校長になった限りは自分がしたいことをするのが一番。皆さんも学校経営を楽しんで!!

## 先輩メッセージ

「すべての関わりに  
支えられて」

菊地 裕 様  
(前宮古市立第一中学校長)



中学校教員として昭和、平成、そして令和と3つの時代を駆け抜けた。教員になりたての頃の未熟な自分を思い起こすと恥かしくなることがたくさんある。あの頃先輩の先生方はみんな器が大きく、すごい人ばかりに見えた。そして力のない自分に対し熱意と愛情をもって支えて下さり、先生方の話を聞くのがとても面白く、恵まれた初任教時代だったのだとつくづく思う。自分が先輩の立場になり、管理職にもなった時、あの初任の頃の先輩のイメージをもって同僚に接してきたつもりであったがどうだったろうか。確かに時代の流れと共に“昔は〇〇だったのに・・・。”と嘆くことも少なくなかった。

「令和の日本型学校教育」を担い、各学校では日々奮闘されている。様々な新しい教育課題が浮き彫りになる中で岩手の中学生をしっかりと支えている各学校の校長先生に心から敬意を表したい。子どもが少なくなり、時代は変わっても学校はやはり地域の、そして社会にとって希望の場所だ。中学生の成長や活躍はそれだけで周囲に活力を与える。生徒や保護者、教職員だけでなくそれを取り巻く多くの人々との関わりが学校の力そのものになるのだと思う。

3時代にわたる教員生活を無事に定年退職できたのも周囲の皆さんのおかげだった。今になって考えると生徒に教えているつもりが教えられ、保護者を支援しているつもりが支えられ、地域を元気づけようと取り組んだつもりが逆に力強く応援していただいていた。すべての方々に感謝の思いしかない。

時代の流れに沿ってその時代の子どもたちに合った教育手法や重要となるポイントは変化することはあるだろう。しかし、“子どもたち”を主語にしながら教職員、保護者、地域が希望を描く学校の重要性はどんな時代になっても変わらないのだと思う。

学校を取り巻くすべての関わりを大切にしながら夢と希望に満ちた学校経営をしていただいている校長先生方にあらためてエールを送りたい。

## 新任校長の抱負

「2つの心」「6つの力」  
の育成を目指して

岩手地区 千葉 竜也（江刈中）



本校は、清流馬淵川の上流に開け、標高約500Mの高原地帯にあり、豊かな自然に恵まれた北上高地の北部地帯に広がる学区を有しています。3年後には創立80周年、統合50周年を迎える歴史と伝統のある学校です。

全校21名という小規模校ではありますが、学区内には2つの小学校があり、それぞれの地域の文化を継承しながら江刈中学校としての文化を創り上げてきています。また、学校や生徒が地域から見守られ育てていただいていることへの感謝の気持ちを、学習成果の披露や、ボランティア活動への積極的な参加などの地域貢献を通して、「元気を発信」しています。生徒たちが地域をつなぐ存在になることを目指し、「どうすれば地域貢献できるか」をよく考え、気づき活動している姿は本校の誇りです。2008年から続いている「エコキャップ回収運動」は、生徒会が「世界の子供たちにワクチンを！」と地域へ発信し、地域を巻き込んで行われている活動の一つです。

本校の教育目標は「社会の変化を乗り越える知・徳・体の調和がとれた生徒の育成」であり、教育活動全体を通して【2つの心】「豊かな心・強い心」、【6つの力】「生き抜く力・生活基礎力・伝える力・受け止める力・創造力・表現力」を育てようと保護者、地域と一体となって取り組んでいます。

新任校長として着任した私も、迷いや不安がある中で、明るい挨拶や頷きながら話を聞いてくれる生徒たちの真摯な姿や、学校への協力を惜しまない保護者、地域の皆様に助けられながら日々を過ごすことができいております。

これからは、小規模校の利点を生かし、一人一人に焦点を当てながら「AIには代えられない人間らしさ」を土台に、上記に示した「2つの心」「6つの力」を育成していけるよう、校長としての責務を果たしていきたいと思っております。

## 新任校長の抱負

## 「花となれ 光となれ」

一関地区 大川 憲一（藤沢中）



本校は一関市南部、北上山地南端の丘陵地帯に位置する自然豊かな学校です。藤沢は伝統文化や歴史も豊かで、毎年8月に開催される「藤沢野焼祭り」が有名です。生徒は土器や土偶、埴輪などの作品を制作したり、火起こしなどのセレモニーにボランティアとして参加したりしますが、私もせっかく藤沢に赴任したのだからと作品をつくってみました。（この原稿を書いている2日後に窯入れです）。

さて、藤沢は江戸時代には隠れキリシタンの里でもありました。長徳寺というお寺があるのですが、この寺には江戸時代に隠れキリシタンと承知しながら彼らを檀家として受け入れ、擁護してきたという歴史があります。信じている宗教が違っても、同じ人間として、その多様性を認め、共存を図る。今の時代でこそ模範としたい姿が、この地域にあったのです。

また、本校の校歌には「花となれ 光となれ」という一節があります。作詞・作曲をした橋本祥路氏の言葉によると、「花」にはさまざまな色、形、大きさがあるが、同じように子どもたちもそれぞれの良さをもって生き抜いて欲しい、また何の荷いもなく一点で良いから「光」輝いて欲しい、という願いが込められているとのこと、生徒の各々の個性を尊重し、多様な才能を開花させることを目指す教育の理想の姿が現されておりました。

私もこのような地域や学校の歴史に根ざし、学校教育目標の中にもある「人間尊重の精神」に徹した教育を行いたいと考えています。そしてそのためには、保護者の皆様や地域社会との信頼関係を築き、共に「チーム藤中」として子どもたちを支える環境をつくっていくことが必要です。まだスタート地点に立ったばかりですが、職員の協力や一関地方校長会の先輩方の助言が大きな力と励みになっています。

生徒とともに私も成長できるよう、日々努力を重ねていきたいと思っております。

## 新任校長の抱負

「かず語んねゃあで、  
やんべゃあに」

釜石地区 金野 学 (唐丹中)



3月の末に父が他界したために、異動、葬儀、入学式と怒涛のような4月第1週を過ごしました。たださえ初の校長勤務で不安で一杯だったことに加え、学校を不在にする時間が多く、この先どうなることやらと思いましたが、職員のフォローのおかげで何とか乗り切ることができました。

私が勤務する唐丹中学校は、単独の小学校と中学校が一つの校舎の中に同居しているという特殊な環境にあります。職員室と普通教室は別々ですが、それ以外の施設は共用です。自校のことを考えるだけでは学校運営が成り立たず、一貫校とは違った小中連携が常に求められています。しかし、幸いなことに、小学校の校長も今年度昇任した同級生のため、小中連携はもちろん気軽に相談や助け合いをすることができてとても心強いです。

私の学校経営の目標は「元気に登校し、笑顔で帰る学校」を作ることです。学校が生徒、職員、保護者を含め、学校にかかわるすべての人にとって居心地の良い場所になることが願いです。そのような学校を実現するため、常に人の話に耳を傾け、心に寄り添い、共に考えていきたいと思っています。

本校はごく小規模校なのですが、様々な課題を抱えています。その大きな原因の一つが自己中心的な思考（うまくいかないのは人のせい、思い通りにならないと気が済まない等）です。世の中には様々な人がいて、すべての人がそれぞれの境遇の中でそれぞれの考えを持っています。私が生まれ育った気仙地方には「やんべゃあに」という言葉があります。共通語でいうと「いい塩梅に」です。また、不平や文句のことを「かず」と言います。私は、校長としても一人の人間としても、「かず語んねゃあで、やんべゃあに」生きていきたいと思っています。そして、経営目標達成のために、精神誠意努めていきたいと思っています。

## 新任校長の抱負

## 「誨而不倦」

二戸地区 五十嵐 智 (一戸中)



本校は、世界遺産の一つである御所野縄文遺跡のある一戸町にあり、校歌の歌詞の最初に「山なみを四方にめぐらし」とあるように、四方の山々に囲まれた中にあります。現在、本校は4つの小学校から生徒が来ていますが、今年度末で2校が閉校することになっており、平成元年頃までは400名を超えていた生徒数も、現在は161名になっています。校舎は年月は経ていますが、施設設備も整っており、体育館は2階建てでバレー、バスケットが2面十分にとれる広さがあります。部活動が盛んな（強い）学校というイメージをもっていました。職員室の周りの壁には、毎年、大会で上位入賞した部が集合写真として飾られています。生徒数の減少もあり、近年は変化しているようですが、それでも地区優勝や、東北・全国大会に出場する部もあります。

また、本校を含め一戸町の7校の小中学校の教育に対する手厚い支援や地域の様子から、学校に寄せる期待の大きさを感じています。

赴任して4か月、最初は右往左往していた私も、ようやく会報の原稿を書く気持ちになれるようになりました。また、校長になり最初に感じたのは、校長室に1人いることの違和感…、職員室の会話や笑い声が聞こえてくると懐かしい気持ちになったりもしました。と同時に、自分自身で考え、決定しなければという大きな責任も感じる毎日を送っています。

本校には学校教育目標とともに、指導にあたり「誨而不倦」（かいじふけん）を宗とするという信条があります。この言葉は論語にあり、「手を抜かずしっかりと人を教え導くこと。」「時間がかかっても、諦めずに教えること。」という意味があるようです。誰一人取り残すことのない令和型の教育に対して、「誨而不倦」という言葉はとても重要な意味をもっていると感じています。一戸の子ども達の育成のため受け継がれてきたこの言葉を大切に経営を進めたいと思います。

## 私の学校経営

## 「教職員の人材育成を大切にしたい学校経営」



紫波地区 角谷 隆章 (紫波三中)

校長職に就くことが決まると同時にスーッと頭に浮かんだ自身の教育理念がある。すなわちそれは、「子どもたちの安全・安心と健やかな成長」、「教職員の健康とやりがいのバランス」、「〇〇学校に関係する方々との良好な関係」の3つである。

私は、この理念には校長として学校という空間で大事にすべきあらゆることが凝縮されていると、校長職5年目を迎え、何やら確信めいたものを感じている。年度初日、教職員には具体的に説明をした上で、校長の“判断・決断”もこの理念を基本にしていることを常日頃から伝えるように心がけている。

私の教育理念を教職員に浸透させ、ベクトルの向きを合わせていくことが充実した学校経営につながると考えるなら、私がやるべきことはただ一点。それは、教職員の人材育成である。数ある取組の中から2つほど紹介させていただく。

まずは面談。4月と9月の“手ぶら面談”、6月の期首面談、10月の期末面談、2月の総括面談をはじめ、普段から教職員の話聞く機会をたくさん設けて、必要な支援をすることで、教職員一人ひとりがやるべきことを真剣に考え、自信をもって実行に移せるようにしている。

次に教職員向け校長室だより「おおらかに」の発行。振り返れば私の教諭時代の指導アイテムは学級・学年通信であった。校長になってもそのスタイルは変えていない。じっくりくるのである。新しい教育情報、校内での出来事、日常生活の所感、コンプライアンス、社会情勢等々、ジャンルは多岐に渡るが、「校長がタイムリーに伝えたいことなので一読はして下さい。あとはごみ箱行きでも構いません(笑)」と話して渡している。号外を合わせて1学期は33号。職員室で話題になることもあり、人材育成の一助にもなっているようだ。

今後、私自身もアップデートしながら、さらによりよい学校経営に取り組んでいきたい。

## 私の学校経営

## 輝く生徒のために



遠野地区 佐々木 誠 (遠野東中)

「職員を上手くまとめる方法は?」「職員が意気を感じて仕事をするためには?」「職員の課題をどうやって解決するか?」

新任の頃、このようなことばかり考えていました。「生徒に軸足を置いて物事を考えよう。」と自分の中で決めていたはずなのですが、「生徒のために先生方に頑張ってもらいたい。」という思いから、生徒よりも先生方に目がいってしまう日々が続きました。

本校の生徒たちは、明るく元気に挨拶ができる素晴らしい生徒たちです。先輩方から引き継いでいる伝統「心をつなぐ挨拶」「心に響く合唱」「心を揺さぶる応援・ソーラン」「心を磨く清掃」の四本柱を心から大切にしています。私が声をかけても、しっかりと向き合い笑顔で応えてくれます。ある日、その生徒たちと校長室で個別面談を行いました。ありきたりの質問をする中で、「担任の先生が自分のことを真剣に考えてくれる。とても信頼している。」という話をたくさん生徒から聞きました。そのとき、学校生活の中でこの素晴らしい生徒たちをこれまで育ててきた、今現在育てているのは、目の前にいる先生方であることに気がつきました。

それからは、できるだけ先生方のプラスの面を見るようにしました。見方を変えるだけで、学校全体が前に進む感覚を感じることができるようになりました。そして、より良い方向へ進むためには、「プラスとプラスをつなぎ合わせる」ことが大切なのではないかと考えました。生徒が輝くため、私たち職員集団は生徒に明かりを灯す機械であり、職員一人一人がその部品だとします。部品の組み合わせによって、明るくも暗くもなるとすれば、その部品をどう組み合わせるのか。手元にある部品を単純に繋ぎ合わせるのではなく、より明るい光を照らすために最善の組み合わせはどうあるべきか。知恵の輪を解きながらジグソーパズルのピースを埋めるような、複雑な作業になりますが、これができればより生徒が輝きを放つことができるものと思っています。

# 各地区校長会活動 **NOW**

## 盛岡地区校長会



### 「連携と協力」で 充実した学校経営を

及川 公子（土淵中）

#### 1 はじめに

盛岡市中学校長会は、盛岡市立中学校と岩手大学教育学部附属中学校との23校24名で構成されており、学校経営の充実に向けた連携協力と会員相互の親睦を図りながら活動している。

#### 2 本年度の活動方針

中学校を取り巻く諸問題について、その解決に取り組みつつ、人間性豊かな生徒を育成する中学校経営の充実に努める。

- (1) 教育諸条件の充実に努める。
- (2) 会員相互に連携し、研修・親睦を図る。
- (3) 当面する教育情報の交換・提供を図る。会員相互の連携を大事にするとともに、市教委や関係機関との連携を強固なものにするよう努める。

#### 3 本年度の主な活動内容

- (1) 総会、定例研修会、学校経営研修会のほか、小中合同研修会、中高連携合同会議等の実施。
- (2) 学校経営の充実と発展に資する研究の推進。「確かな学力の育成を図る学校経営のあり方～主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力の育成を図る学校体制や取組に関する研究～」をテーマに、岩手県校長研究大会にて発表。
- (3) 教育諸条件の整備改善に資する行財政関係調査への取組。
- (4) 中学生の健全育成を目指し指導に万全を期すための小中学校及び高等学校、関係機関との情報共有や連携協力の強化。
- (5) 広報「盛中」の発行による会員相互の教育実践交流と盛岡市中学校長会の活動紹介。

#### 4 おわりに

様々な学校課題に対応する英知とエネルギーを生み出す校長会として、さらに前進していきたい。また、今年度全日中岩手大会が盛岡市で開催されることから、全面的に協力し大会を盛り上げていきたい。

## 花巻市地区校長会



### 「叡智の結集と研鑽を 重ねる校長会」

横手 勝美（花巻中）

#### 1 はじめに

花巻市校長会中学校部会は、花巻市内中学校11校で構成されている。花巻市の学校教育の伝統と教育環境を理解するとともに、当市や各校で当面する教育課題の解決を目指して活動している。

#### 2 本年度の活動方針

- (1) 教育専門職としての研修に努める。
- (2) 当面する教育課題や地域課題を的確に把握し、協力して課題解決に努める。
- (3) 関係機関・団体と連携し、教育諸条件の整備・改善に努める。
- (4) 情報交流を活発にし、会員相互の連携と親睦を図るとともに会の円滑な運営に努める。

#### 3 本年度の主な活動内容

- (1) 校長及び教員研修の充実  
年間4回の全体研修会、人材育成を狙った

教職専門研修講座、学校経営部会、キャリア研修会等を実施している。また、年2回中高連絡会も実施している。

#### (2) 中学校部会の研究推進

昨年度より中学校部会を2つに分けて研究している。2つにすることで、多方面の研修を行うとともに、発表を聞き合うことで各校の学校経営に役立てている。

#### (3) 教育諸条件の整備・充実

小学校部会とも連携して、予算及び教育指導事業等への要望事項をまとめ、市教委と協議している。

#### (4) 会員の相互交流

歓迎会、送別会、会報「清流」、惜別のしおりの作成等を行っている。

#### 4 おわりに

コロナ禍が終わり、各校ではほぼ例年通りの教育活動が行われている。しかし、教員採用試験の受験者数減少や講師不足を見るにつけ、働き方改革を積極的に行う必要性を感じている。部会で研究している「部活動の地域移行」や日常の行事等の見直し等も進めることにより、教職員が生き生きと生活することができる職場を目指していきたい。

# 各地区校長会活動 NOW

## 和賀地区校長会



「連帯した活動を目指して」

加藤 建一 (南中)

### 1 はじめに

和賀地区中学校長会は、北上市9校、西和賀町2校の計11校で構成されています。4月に4名の新入会員を迎え、市や町の中学校長会や地区小学校長会とも連携しながら、「和賀の地に根ざした学校経営の創造」と「地区全体の教育の振興」を目指しています。

### 2 本年度の活動方針

- (1) 社会の変化や地区内の課題に対応した学校経営に資する研修の充実に努める。
- (2) 校長としての識見・力量を高め、教育課題の解決に努める。
- (3) 地区内校長会との連携を強化するとともに、会員の英知を結集し、組織活動の充実に努める。
- (4) 会員相互の親睦・交流を図り、連帯感を高める。

### 3 本年度の主な活動内容

- (1) 総会、研修会の実施

4月の総会にはじまり、小中学校合同の全体研修会を年3回、中学校班での研修会を年2回開催しています。

### (2) 研究の推進

今年度の県校長研究大会二戸大会で発表する予定です。テーマは「よりよい学校生活を築こうとする実践的態度を育てる生徒会活動～和賀地区中学校の連携を通して～」というものです。北上市教育委員会主催の生徒会リーダー交流会「中学生サミット」をより一層活用する方法と、リーダーを育成するための校長の関わり方、等を模索してきました。

### (3) 中学校・高等学校連絡会の開催

今年度は、専修大学北上高等学校の新校舎を会場に、施設見学と地区の高等学校長との情報交換会を行い、その後ひさびさに懇親会も開催しました。

### 4 おわりに

これまで会員一同、学校経営に係る研修を積み重ねながら校長としての資質を高め、職務能力の向上を図ってきました。学力の向上や進路指導だけでなく、生徒の指導や保護者に係ること、さらに部活動の地域移行など様々な教育課題が山積していますが、会員同士ができうる限りの知恵を出し合い、同じ歩調で行けるよう、連帯感と一体感を持って今後も活動していきたいと思ひます。

## 気仙地区校長会



「気仙はひとつ」気仙の子どもたちのために

佐々木伸一 (末崎中)

### 1 はじめに

気仙地区校長会中学校部会は、大船渡市4校、陸前高田市2校、住田町1校の計7校で構成されています。来年度は、大船渡中と末崎中が統合し「大船渡中(新設)」となり、計6校となります。

本部会では、「気仙はひとつ」の合言葉のもと、気仙の子どもたちのために、校長同士の横のつながりを大切にしながら、学校経営の充実に目指して活動しています。

### 2 本年度の活動方針

- (1) 会員相互の連携と交流を密にし、本会の活動の充実とその活性化に努める。
- (2) 教育の目指す高い理想の実現に向け、保護者・地域と一体となった、特色ある学校づく

りに努める。

- (3) 研究・研修を充実させ、校長としての識見・力量を高め、教職員の人材育成と学校経営の力量向上に努める。
- (4) 関係機関・団体との連携を図り、気仙地区中学校教育の改善・充実に努める。
- (5) 学校における働き方改革の推進に努める。

### 3 本年度の活動内容の重点

校長としての資質向上、気仙地区中学校教育の充実のため、年2回の学校経営研修会と年2回の学校情報交換会、管内県立高等学校長との年2回の意見交換会を行っています。高等学校長とは、学習、生徒指導、進路等の情報交換を具体的にを行い、教育活動の連携、充実に努めています。

### 4 おわりに

気仙地区中学校では、東日本大震災津波を経験し、「いきる」「かかわる」「そなえる」の復興教育が、教育課程に多く取り入れられ、特色ある教育活動が各校で行われています。今後も時代の流れを読み、喫緊の学校教育課題について、本部会で共通認識し、活動を強化していきたいと思ひます。

## 令和6年度東北地区中学校長会 第1回副会長及び第1回理事会が開催されました

6月28日、アイーナにおいて標記会議が開催されました。その席上、「令和6年度東北地区中学校長会の宣言及び決議」について協議し、承認されたものを下記にお示しいたします。

### 令和6年度東北地区中学校長会の宣言及び決議

#### 【宣言】

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。私たちは自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化中、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育革新を推進し、教育の真価を示さなければならない。

東北地区中学校長会は、教育改革の推進と直面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、東北各県民の負託に応えていくことを宣言し、以下の事項を決議する。

#### 【決議】

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会形成する力」を育む教育を推進する。
- 一、全日中教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備に努める。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する
- 一、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮するとともに「学校における働き方改革の推進」「教員の勤務実態を踏まえた環境整備」を要請し、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期する。
- 一、東日本大震災及び原子力発電所事故をはじめ、近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と東北各地区・各学校における防災教育・安全教育の充実に努める。

令和6年6月28日

東北地区中学校長会 理事会

## 令和6年度本県義務教育の充実振興に関する懇談会が開催されました



8月27日、岩手県教育委員会・岩手県小学校長会・岩手県中学校長会の三者による「本県義務教育の充実振興に関する懇談会」が行われました。これは現在進められている県の教育施策について、各課の課長より現在の進捗状況や今後の見通しなどについてご説明をいただき、小中学校長会の代表からの質問や要望等をお聞きいただく貴重な機会として毎年開催されているものであります。今年度もお忙しいところ、佐藤一男教育長をはじめ教育次長、各課の課長にお越しいただきました。最後に、佐藤教育長よりご評価をいただきました。「教育行政の長としてまずは課題解決が第一の仕事であること、その第一歩としてそのことが教育課題としてしっかり共通認識しながら教育委員会として学校と共に課題の解決に取り組んでいきたい」「次回改訂の学習指導要領については、その多くにICT関連の内容が盛り込まれるであろうことが予想されることから、岩手も他の都道府県に遅れることなくしっかりと準備を進めることも大切である」とのお話がありました。

